

令和2年度学校評価基準

本年度の重点目標	① 発達段階や障害特性に応じ、自分の役割を理解し、果たそうとする態度や意欲を身に付ける。 ② 実際的な活動を通して、社会の一員として活躍するために必要な力を培う。		
項目	重点目標	具体的方策	留意事項
キャリア教育の推進	<進路指導部> ・就労や福祉関係者とのネットワークを構築する。	・地域の関係機関に働き掛け、産業現場等における実習や校外学習等で連携を図る。 ・自立支援協議会等の地域における会議に参加する。	・地域の状況を踏まえたうえで、学校の教育目標を伝え、理解が得られるように働き掛けていく。 ・地域の課題を理解し、学校の役割を果たすことで、関係機関との連携を密にする。
	<小学部> ・社会自立を目指し、基本的な生活習慣を身に付けるための指導を実践する。	・キャリア発達能力段階表（H27・28校内研究成果物）で児童の実態を客観的に捉え、小学部会で計画的に共通理解を図る。 ・児童の実態からキャリア教育を踏まえた目標を設定し、日常の指導・支援に取り組む。 ・「身近な人と豊かに関わる力」の育成に関する学習内容を「日常生活の指導」「生活単元学習・遊びの指導」に取り入れる。	・各領域・教科の視点だけでなく、キャリア教育の視点から、社会自立に向けた全体的な目標や道筋を意識していく。 ・「基礎的・汎用的能力を基とした各部段階におけるキャリア発達能力の目標の一覧表」を活用し、より個の実態に合った目標を設定し、随時評価、修正を行う。
	<中学部> ・社会生活への関心を高めるとともに、仲間と協力して活動することや自分の役割を理解して実践する力を身に付ける。	・各授業において、社会形成能力や自己理解能力を高めるための要素を取り入れる。 ・田植え体験活動や買い物学習など、多様な体験活動の場を設定する。	・教科等横断的な視点からねらいの具体化や関連付けを図る。 ・家庭や地域社会とも連携し、体験活動の一層の充実を図る。 ・PDCAサイクルにおいて、学習状況や結果を適宜、適切に評価を行い、指導目標や内容、方法の改善を図る。
	<高等部> ・生徒が、自分自身を肯定的に理解し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力（自己理解・自己管理能力）を高める。	・文部科学省が示すキャリア教育の「自己理解・自己管理能力」及び新学習指導要領総説の「学びに向かう力」についての考え方を、高等部会や主任者会を利用し高等部職員で共有する。 ・作業学習で行う振り返り活動の指導内容について、「自己理解をより促すために」という観点で改善を図る。	・継続的な改善が図れるよう、2・3学期の初めの高等部会で、文部科学省が示す考え方を再確認する機会を設定する。 ・各作業班には自由な発想・工夫による取り組みを依頼する。主担当教員等への聞き取りを通して、現状や改善の進捗状況を把握する。 ・作業時の言葉掛けの工夫、ワークシートの内容変更等、振り返り活動の改善に向けて具体的に試行した指導実践をまとめ、年度末の高等部会で共有する。
いじめに対する取組	・日頃から児童生徒のささいな兆候を見逃さないように努める。 ・児童生徒が悩みを一人で抱え込まないよう学校全体で組織的に対応する。	・児童生徒の様子について、関連教職員で情報を共有する。 ・高等部において年2回生活アンケートを実施する。緊急性の有無を把握し迅速に対応する。 ・アンケート結果から、本校の生徒の傾向をつかみ、運営委員会で職員に知らせる。	・いじめ等の問題はなるべく早い段階で組織的に対処する。報告・連絡・相談を密に行う。 ・児童、生徒の気持ちに留意して対応する。
職員の労働環境	・職員の在籍時間適正化に努め、健康障害防止に努める。	・在籍時間の正確な把握に努める。 ・定時退校日の設定と、午後8時施錠を実施する。	・在籍時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	・キャリア教育		

令和元年度学校評価（最終報告）

本年度の 重点目標	① 開かれた学校をつくり、地域・保護者からの信頼を得る。 ② 新学習指導要領に対応し、その成果を教育活動に反映させる。		
項目	重点目標	具体的方策	評価と課題
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページにより本校の情報を広く発信し、学校への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期に数回の更新を行い、広く関係者に本校の活動を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> トップページやあんようスクールライフの更新を定期的に行い、本校の活動を広く伝えた。ホームページの掲載内容の精選やレイアウトの改善を行っていくことを課題としている。
	<ul style="list-style-type: none"> 交流及び共同学習を積極的に実施し、地域に根ざした学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の小学校・中学校・高等学校との交流及び共同学習を実施する。 中学部・高等部生徒と地域の方々との交流活動や奉仕活動を計画・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校との交流及び共同学習を予定通り行うことができた。来年度も継続して行う。 中学部は田植え・稲刈りを通して、地域の方や自然との触れ合いを体験することができた。 高等部の地域老人クラブとの交流では、これまでの交流の積み重ねや活動内容の工夫により、より相互理解が深まった。
	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりや広報を利用し、本校の情報を広く発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、学校要覧、地域の看板掲示用のチラシなどを、分かりやすいレイアウト・内容になるよう見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりのレイアウトや作成用のソフトを複数検討し、よりよいものを選ぶことができた。地域の看板掲示用のチラシの発行回数を増やすと共に、校外の方に見てもらおうべき事柄を検討することで、内容も改善することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 企業、福祉事業所との連携を深めて、学校への理解を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 企業、福祉事業所との連携を深めるため、学校見学会を実施する。 学校や生徒についての理解促進を目指し、実習や校外作業学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 6月に福祉事業所向けの学校見学会を実施した。定員を超える申し込みがあり、人数を調整して実施した。学校の教育内容が参考になった、など参加者から多数の好評をいただいた。次年度以降も同様の方法で実施していく。企業向けの学校見学会は、1月下旬に予定している。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々に信頼されるよう、安全な学校環境作りを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月安全点検を実施して、安全で快適な学校を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検で挙げられた個所の修繕を行った。学校の老朽化に伴う施設の修繕も多くみられた。来年度以降も引き続き校内の設備の点検、修理を行っている。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の幼稚園、小中学校、高等学校への特別支援教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校のニーズに応えられるよう、相談活動や検討会を行う。 地域の教員向けの研修会や授業体験活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の学校等への相談活動では、相談後、各校に振り返りのシートを記入していただくよう依頼したところ、多くの学校からシートをいただき、助言内容について、さっそく実践されているとの報告を受けた。 2度の研修会後のアンケートでは、研修内容について概ね「よかった」との回答を多くいただくことができ、普段の支援の方法や特別支援教育に関する進路支援について、参加職員の理解を深めることができた。
新学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づき、教育課程の編成をする。 令和2年度に45分授業を実現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各領域・教科グループを中心に学習会を行い、教育課程を見直す。 日課表や時間割等の見直しと調整を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研修の時間を活用して、各領域・教科グループ内で話し合いを行った。新学習指導要領の要点を整理し、指導内容段階表の見直し等を行った。 各都で日課表の調整と時間割の見直し等を行った。保護者にも通知を行い、次年度に向けて準備をすることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領についての学習会と現職研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5月に各部で学習会、8月に講師を招いて現職研修を実施した。新学習指導要領について、職員の理解を深めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動について素地を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動について、本校の課題の把握と情報収集をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や校内の研修会、校内研究、主任者会等の機会を活用して、自立活動の情報収集を行った。把握した課題をもとに、次年度の指導に役立てる。
	<ul style="list-style-type: none"> 卒業後を見据え、児童生徒が主体的に運動に取り組もうとする気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストの成績や授業で計測した記録について、具体的な目標をもつことができるよう、児童生徒に分かりやすく伝える工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストでは、昨年度の記録を目標に児童生徒が各種目に取り組むことができた。体育の授業では、各学部の実態に応じて分かりやすいルールの設定やICT機器を取り入れた授業内容など児童生徒が主体的に体を動かそうとする気持ちを養うことができた。
いじめに対する取組	<ul style="list-style-type: none"> いじめを未然に防ぐとともに、実際に起きてしまったら適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等部において年2回生活アンケートを実施することで、表面化していない部分の実態を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1回の結果は、「悩み」や「いじめ」に関して記述があった生徒は、全体の17%あった。その後、担任が個別に相談し、対応の緊急性について状況を把握した。今回は、緊急性の高い案件には至らなかったが、生徒の気になる行動や言動にはその都度対応し、未然防止に努めている。第2回（1月）でも同様に対応していきたい。
職員の労働環境	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員が相談しやすい環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会、学年主任会により職員の状態を把握し適切に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職を中心に、得られた情報をもとに適切な対応ができるように心がけた。本年度新たにメンタルが原因と思われる療養休暇者は出なかった。
学校関係者評価を実施する 主な項目	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくり 新学習指導要領への対応 		
総合評価	本年度は重点目標を具体的に立てることで、確実に成果を上げることができた。開かれた学校づくりについては、学校独自の努力以外に、新聞でもたびたび記事として取り上げられ、それも効果的だった。新学習指導要領の対応については、日々の地道な研鑽が、今後、本校の教育力として開花するための礎となった。		